

コドリリングの侵入警戒調査 (その2)

前号に紹介したように、侵入警戒調査用トラップで捕獲される蛾類は種類が多く、目的のコドリリングを識別するにはコドリリングの形態的な特徴をしっかりと認識することが大切である。

コドリリング成虫の外見的特徴は、①前翅の地色は灰褐色で前縁に黒色と白色からなる鋸目状紋がある。また、濃褐色の鱗粉からなる肛上紋がある。②後翅の地色は灰色で、雄は中室後角付近に暗褐色の毛束をもつ。③開張14～22mmである。

実際のトラップに捕獲された蛾類は、アリなどに食害され、虫体の一部が破損している個体がある。また、粘着板の粘着物質が浸透し、体色や翅の色彩及び斑紋が黒く油浸状になり不明瞭になっている場合が多いが、この粘着物質はキシレンを使って油分を取除くと実際の斑紋や色が観察できるようになる。しかし、虫体がもろく破損しやすくなるので、取扱いには注意が必要である。

まず、トラップに捕獲された蛾を翅の形や大きさなどの特徴から科別に仕分けして、ヒメハマキガ類に属するかどうかを確認する。ヒメハマキガ類の特徴は、開張10～30mmの比較的小型の蛾で、前翅は長方形で前縁部に鋸目状紋がある。

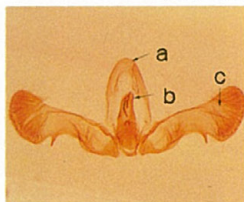
今回の調査で多数捕獲されたイツシキヒメハマキの開張は10～13.5mmでコドリリングよりかなり小さく、トビモンシロヒメハマキは開張16～25mmでコドリリングと同じ程度であるが、翅が白色を帯びていることから識別できる。また、ヤナギサザナミヒメハマキは開張17～20mmでコドリリングに類似したさざ波状の斑紋があるが前翅は黄褐色であることから識別できる。

しかし、このほかにもヒメハマキガ類は種類が多いことから、コドリリングか否かを最終確認するには交尾器の形態観察が不可欠である。交尾器の形態を調べるときは70%エチルアルコール水溶液中で観察する。コドリリングの雄交尾器はウックス、ソキウスが退化しており、バルバはヘラ状で腹縁部に1対の突起があるのが特徴である。

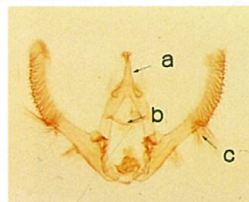
コドリリングの侵入警戒調査用トラップを設置す



コドリリングの成虫



コドリリングの交尾器



ヤナギサザナミヒメハマキの交尾器

- a. ウックス：交尾器の背方先端部にある鱗状の骨化部
b. ソキウス：ウックスの基部両側からのびる1対の突起部
c. バルバ：交尾器の側方にある1対の把握器

る場合の注意点は、①トラップは目の高さの1.5mに設置すること、②風通しがよく、直接日光が当たらないこと、③光に多くの蛾類が集まってくるので、トラップの周辺に灯火がないことを確認すること、④トラップが幹や枝に直接触れていると、捕獲された個体ガアリなどに食害されるので注意すること、⑤粘着板の交換は定期的に行い、ゴミやほこりが付かないようにすること、⑥ゴムセプタは必ず持ち帰って処分することである。

トラップに捕獲された蛾類は、蛾の形に粘着板をハサミで切り取り、これを台紙として昆虫針で留めて標本箱に整理することができる。また、この状態で普通の昆虫標本と同様に送付することが可能である。

侵入警戒調査で、万一コドリリングかコドリリングの類似虫が捕獲された場合は、早急に最寄りの植物防疫所に連絡してください。

訂正：前39号3頁の写真中段右の「ヤナギサザナミハマキ」は「ヤナギサザナミヒメハマキ」の誤りでした。